

概要

- ・狩猟のために発明された弓矢は、人間同士の闘いの武器となったが、16世紀の鉄砲の発明と発達により、武器としての価値は衰退していった。
- ・イギリスを中心にスポーツとしての道を歩みはじめたのが近代アーチェリーの起源で、アメリカ大陸に渡ったイギリスの清教徒によりアメリカにも普及し、現在全世界において六百万人以上のアーチェリー人口を有する国際スポーツとなった。
- ・我が国のアーチェリーの歴史は昭和41年にアメリカから伝わり、昭和22年に日本洋弓会が結成されている。現在の全日本アーチェリー協会は昭和41年に結成され今日に至っている。

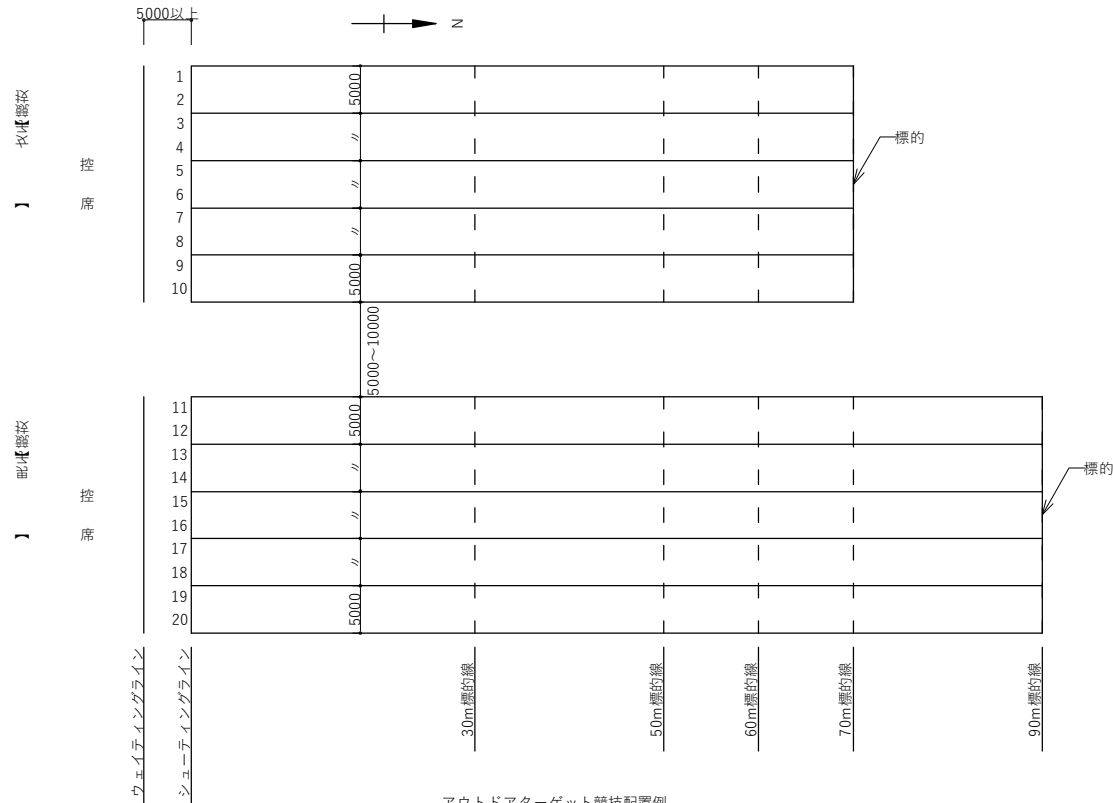
規格

アウトドアターゲットアーチェリー

競技場は四角形に区切られ、距離は各標的面の中心の真下の位置からシューティングラインまでを正確に計測する。

- 距離 (男子) 90m、70m、50m、30m (女子) 70m、60m、50m、30m
- 距離の許容誤差 90m、70m、60mの距離では±30cm 50m、30mの距離では±15cm

- シューティングレーン
 - ・シューティングラインから標的に向かって直角に線を引き、シューティングレーンを形成する。
 - ・シューティングレーンの間隔は5mとし、2個の標的を設置する。
 - ・男子と女子の間には幅5~10mの分離レーンを設けることができる。
 - ・2名以上の競技者が同じ標的に同時に射撃する場合は、1競技者あたり80cm以上の間隔を確保しなければならない。
 - ・車椅子競技者の参加がある場合、要望があればその間隔を考慮する。
- ウェイトングライン
 - ・ウェイトングラインは、シューティングラインの5m以上後方の位置に設置する。
- 標的
 - ・標的面の中心は平らにならした地上から130cm高さに位置する。
 - ・3個又は4個のマルチ標的面を使用する場合は、上段標的面の中心は172cmを上限とし、下段標的面の中心は地上から90cmを下限とする。標準面の高さの誤差は、的の中心で±5cm以内とする。
 - ・標的は10度から15度までの任意の角度で設置し、1列に並べた標的は全て同じ角度とする。
- 安全対策
 - ・観客が競技場内に立ち入らないように、最外側シューティングラインの端から10m以上離れた位置やウェイトングライン後方にも10m以上離れた位置に安全柵を設置する。
 - ・標的の後方50m以内は、一般の人が通過しないようにする必要がある。ただし、ロープ張りやライン引きで安全柵の代用とすることもできる。
 - ・標的の後方50mの距離は、3~5mの矢止めネット、盛土等により減少することができる。また、距離の中間に地上から高さ5m程度の位置に矢止めネットを設置すると効果がある。



アウトドアターゲット競技配置例

規格

インドアターゲットアーチェリー

競技場は四角形に区切られ、距離は各標的面の中心の真下の位置からシューティングラインまでを正確に計測する。

- 距離 25m、18m
- 距離の公差 距離の±10cm
- シューティングレーン
 - ・シューティングレーンの間隔は、1競技者あたり80cm以上とする。
 - ・車椅子競技者の参加がある場合、要望があればその間隔を考慮する。
- ウェイトングライン
 - ・ウェイトングラインはシューティングラインの3m以上後方の位置に設置する。
- 標的
 - ・標的面は垂直から15度までの任意の角度とする。
- 安全対策
 - ・競技場の大きさによって必要なとき、一般の人が立ち入らないように適当な安全柵を競技場の周囲に設置し、最外側のシューティングレーンの端から10m以上、ウェイトングライン後方は5m以上とする。
 - ・標的の後方は、人が立ち入らないようにする。
 - ・光源は、自然光あるいは人工照明のいずれでも良いが、標的面の明るさには充分に配慮する。

勾配

インドア競技は室内コース、フィールド競技は地形を生かしたコースであり、特に勾配に左右されることはない。
アウトドア競技は、平地のコースであり、降雨による表面排水処理に留意する。

方位

アウトドアおよびフィールドアーチェリーの標的は北側に設置することが望ましく、競技者が太陽の光を直接目に受けることがないようにする。
競技に最も影響するものは風であり、立地の際は太陽の光とともに考慮する必要がある。

照明設備

アーチェリー場の照明設備は、JISのスポーツ照明基準(JIS Z 9127-2011)を参考に決定する。

規格

フィールドアーチェリー

コースは自然の中に設置したもので起伏を生かした地形となっており、射ち上げ、射ち下ろしなどの変化に富んだものである。

- 距離と配置
 - ・コース距離は、5~60mの中で可能な限り変化させる。また、コースは無用な困難さや危険を感じたり、無駄な時間を費やすことなくシューティングポストおよび標的に容易に移動できるように配置する。
 - ・競技者の集合場所から最も遠いポストは1km以内とし、通常の歩行で15分を超えない範囲とする。
 - ・コースは海拔1,800m以下とし、コース内の高低差は100m未満とする。
- 標的
 - ・標的位置は環状になるように配置し、60cmまたは80cmの標的面が貼れるような2個のバットレスを並べて配置する。
- 安全対策
 - ・コースに沿って移動する際の安全と容易さを確保するために、標的から次の標的への道順を示すはっきり見える案内表示を適当な間隔で設置する。
 - ・的を外れた矢が遠くまで飛んでしまう丘の上など、地形の頂部に的を設置してはならない。